

岡山県における畜産業の現状と環境対策について

岡山県農林水産部畜産課
荒金 知宏

1 岡山県の概要

岡山県は山陽道の中央に位置し、東は兵庫県、西は広島県に隣接しています。南は昔より水運に恵まれた瀬戸内海に臨んで四国に、北は山陰地方と接し、中国地方の交通の要衝として古くから重要な位置にあります。

古代から、大和地方と並んで古代吉備の文化発祥の地として栄え、現在に至るまで多様な産業、経済、文化の振興に大きく寄与してきました。

そして今、県内縦横に延びる高速道路網、国内外へ飛び立つ岡山空港、新幹線をはじめとした東西南北につながる鉄道など、全国まれに見る交通基盤が充実し中国四国のクロスポイントとして発展しています。

2 岡山県の農業の現状

本県の農業産出額は1,262億円(平成16年次)で全国額の1.4%程度となっています。主要な農産物はマスカット・オブ・アレキサンドリアを代表とする温室ぶどうがあり、全国1位の生産量(93.0%)となっています。また、ピオーネ、もも、黒大豆も生産量が全国1位となっています。畜産部門ではジャージー牛の飼養頭数が全国1位となっており全国の飼養頭数の31.1%を占めています。

3 岡山県の畜産業の現状

本県の畜産の農業産出額は434億円(平成16年次)で県全体の農業産出額の約34.4%を占めております。全国額では1.7%を占めており全国で16位に当たります。

畜産部門の内訳で見ますと肉用牛が69億円、乳用牛が132億円、豚が21億円、採卵鶏が156億円、肉用鶏が44億円となっています。

畜産農家数は減少傾向にあるものの、豚、採卵鶏の飼養頭羽数は増加するなど、前年に比べ産出額は13%増加しています。

畜種別農家数及び飼養頭羽数

(平成17年2月1日現在)

畜種	戸数	飼養頭羽数	頭羽数 / 戸
肉用牛	874	36,000 頭	41 頭
乳用牛	532	23,300 頭	44 頭
豚	39	40,400 頭	1,036 頭
採卵鶏	111	7,252 千羽	65千羽
ブロイラー	29	2,229 千羽	77千羽
合計	1,585		

(1) 肉用牛

本県は古くから和牛の産地であり、日本最古の蔓といわれている「竹の谷蔓」は、岡山県の和牛のルーツの一つとして全国的に有名であり体格は雄大で乳量も多く、現在のおかやま和牛の基礎になっています。

一方、中山間地域においては和牛繁殖経営が減少していることから、肉用牛増頭に向けた推進体制を強化しながら、受精卵移植を活用した和牛増産や産肉性の高い種雄牛づくりのほか地域内一貫体制の拡大などに努めるとともに、耕作放棄地等への和牛放牧を推進しています。併せて、県産牛肉トレーサビリティシステムの充実を図り、食肉の安全・安心の確保対策を強化しています。



岡山県種雄牛：第5北盛号

(2) 乳用牛

本県の生乳生産量は中国四国地域では1位であり、全国でも12位と酪農が盛んな県となっています。県内生乳生産量に対する県内処理量の割合は93.2%であり、その内92.4%は飲用乳向けに処理されています。またジャージー牛は、主に県北部の蒜山高原で飼育され、その特性を生かした牛乳・乳製品の開発・販売が行われています。ジャージー牛から搾った乳でつくられた乳製品は、高原の香りを充満した、まるやかな風味を持っています。

(3) 豚

本県の養豚は、ここ数年、飼養戸数は減少傾向にあるものの、飼養頭数は増加しており県下で40千頭程度飼育されています。

特産にはおかやま黒豚があり、主に県北部の奈義町で飼育され、黒豚特有の甘みと柔らかさを持ち、脂のうま味が堪能できると消費者に好評です。



おかやま黒豚

(4) 採卵鶏

県内では7,252千羽が飼育され、県南部の井笠地域を中心に鶏卵が生産され、出荷量では全国7位となっています。

(5) 肉用鶏

2,229千羽のプロイラーが飼育され、県内の2つの食鳥処理場を中心に処理されています。近年では高品質な鶏肉への需要から、特定JASを取得したおかやま地どりや岡山桃太郎地どりが生産され、特有の歯ごたえやコクが好評を得ています。

4 環境保全に対する取り組み

(1) 畜産環境保全の推進

家畜排せつ物に起因する環境問題を、早期に解決するため、家畜排せつ物を有機質肥料として土地還元する「土づくり」を基本に、市町村単位の広域的な大規模家畜排せつ物処理施設から、集落・個人単位の小規模な処理施設の整備を進めております。



良質堆きゅう肥共励会の審査風景

また、利用者のニーズに合った良質堆肥の生産技術の向上を行うため、堆肥品質向上検討会、良質堆きゅう肥共励会の開催をしています。

さらに、岡山県畜産堆肥マップを作成し、耕種農家との連携による堆肥の販路拡大を図ると共に、地域の実情に応じた作業受託組織を育成し、堆肥散布等を請け負う活動を支援することにより、良質堆肥を活用した土づくりによる安全・安心なおかやまブランド農産物の生産拡大と環境保全型農業を推進しています。

(2) 家畜ふん尿処理技術の研究・開発

家畜ふん尿をバイオマスとして活用するためバイオガス発電の実証展示と新たな汚水浄化技術の開発並びに生ゴミ等の廃棄物と家畜ふん尿の合併処理技術の検討を行っています。児島湖及び流入河川の浄化対策として刈り取られ、廃棄物として処分されているヨシ、ヒシ等の水生植物を炭化処理し、畜産経営における環境対策に資するため、家畜排せつ物と一体的に処理する方法や畜舎敷料や脱臭資材等として活用方法を検討しています。



バイオガス発電実証展示施設



ジャージー牛の放牧風景